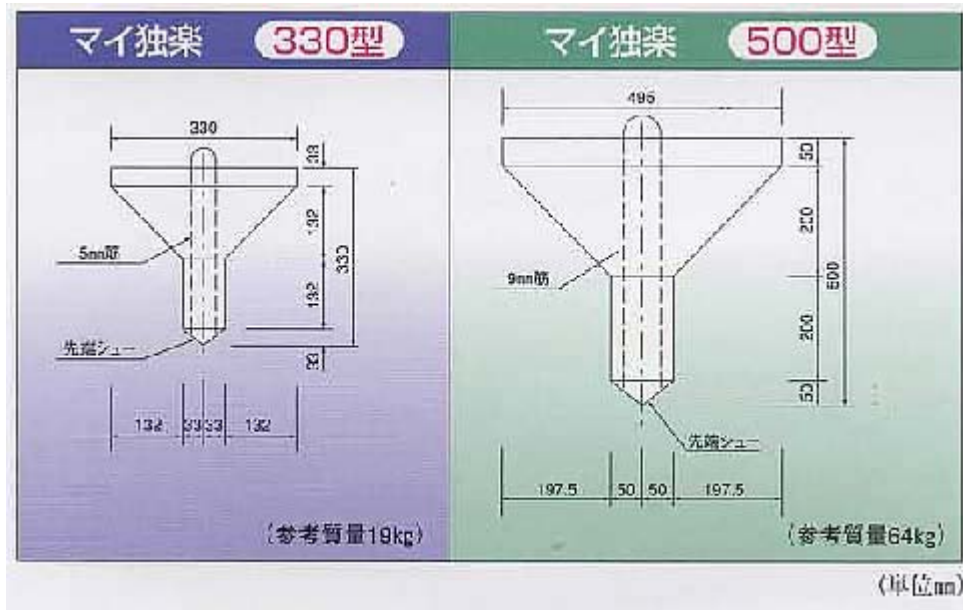


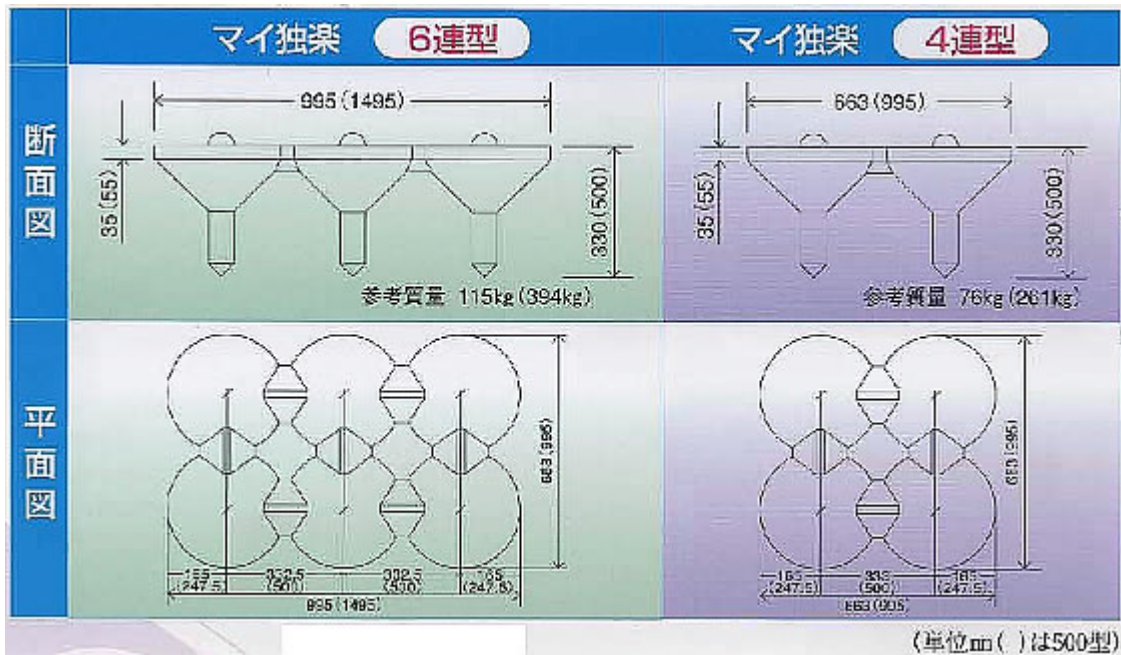
形状・標準歩掛例・適用基準

形状・規格 コマ型ブロック断面寸法

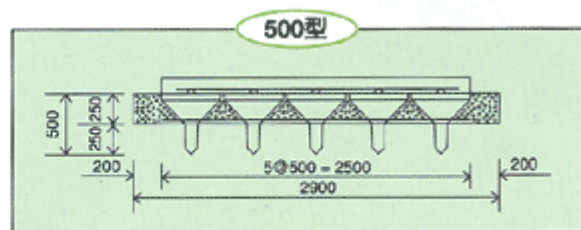
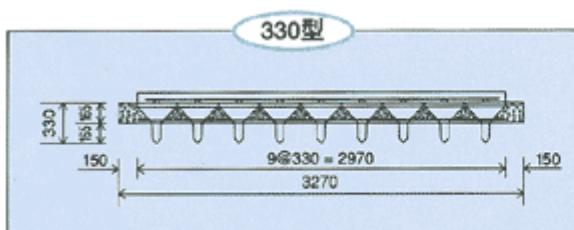
単独タイプ



連結タイプ



設計における条件断面図



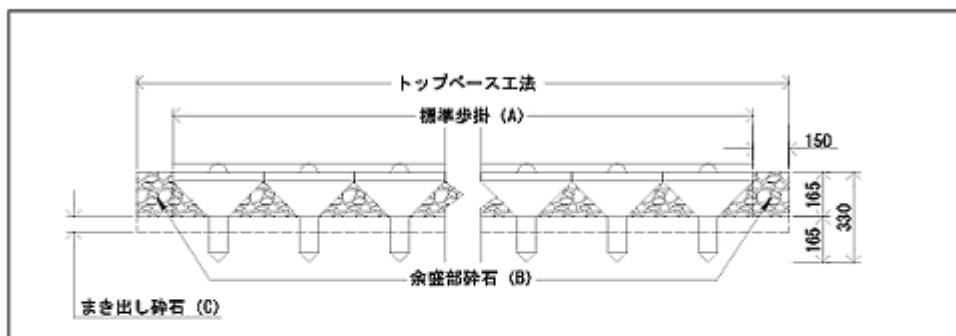
注) 基準となる余盛幅は、330型で150mm、500型で200mmとします。

標準歩掛例

100㎡以上を基準とする場合の、10㎡当りの標準歩掛表

トップベース工法 330型(単独) 設計基準例

【設計における条件断面図】



【設計(A)標準歩掛】

(10㎡当たり)

名称	規格	単位	数量	単価	金額	適用
マイ独案	コンクリート製品 330型	個	90			9個/㎡
世話役		人	0.45			
特殊作業員		人	0.90			
普通作業員		人	1.80			
間詰砕石工	40-0mm(ブロック充填部)		0.96			材工共
筏マット	D10	個	90			加工品
筏ユニオン	鉄筋加工組立 D10	kg	33.3			材工共
計						
1㎡当たり						

(本歩掛は、建設省土木工事積算基準平成7年度版U型側溝L600mm(人力施工)10m(長さ)より算出しています。)

注1)間詰砕石量は、砕石厚16.5cmを基準としています。

注2)施工状態を考慮し、必要に応じてトラッククレーン等を計上してください。

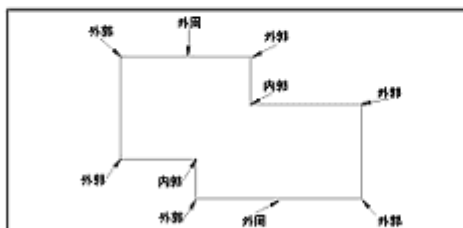
注3)参考重量はV×2.3で330型19kgとしています。

【設計(B)余盛部砕石工】

名称	規格	単位	数量	単価	金額	適用
余盛部砕石工	40-0mm(ブロック外周余盛部)					材工共

※数量計算式

[外周延長+(外郭個所数×0.15m)-(内郭個所数×0.15m)]×0.15m×0.165m



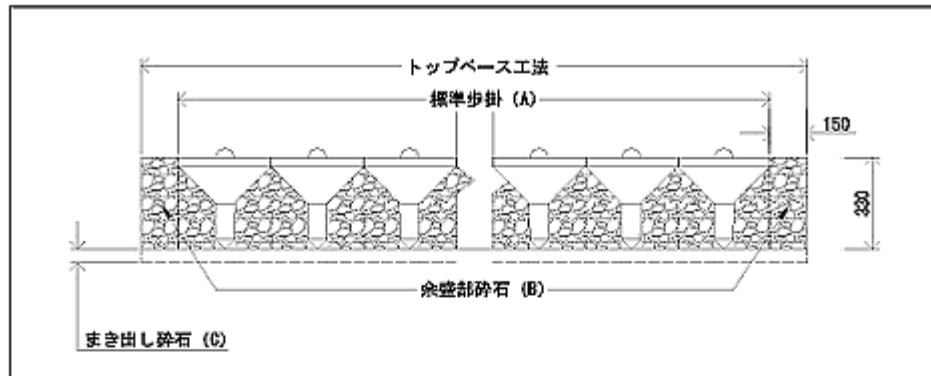
【設計(C)まき出し砕石工】

名称	規格	単位	数量	単価	金額	適用
まき出し砕石工	40-0mm					材工共

注1)作業困難な軟弱地盤でのまき出し量は、別途必要量を計上してください。

トップベース工法 330型2×3(6連) 設計基準例

【設計における条件断面図】



【設計(A)標準歩掛】

(10㎡当たり)

名称	規格	単位	数量	単価	金額	適用
マイ独楽	コンクリート製品2×3(6連)	基	15			
世話役		人	0.10			
ブロック工		人	0.20			
特殊作業員		人	0.10			
普通作業員		人	0.40			
ラフテレーン クレーン運転	換気ガス対策型 油圧伸縮ジブ25t吊	日	0.20			
間詰砕石工	40-0mm(ブロック充填部)		2.54			材工共
計						
1㎡当たり						

(本歩掛は、国土交通省土木工事積算基準平成17年度版P68の歩掛を参考にしています。)

注1)間詰砕石量は、砕石厚33cmを基準としています。

注2)本歩掛は、トップベース工法330型2×2(4連)についても適用できるものとしています。

注3)参考重量はV×2.3で330型6連115kg、4連76kgとしています。

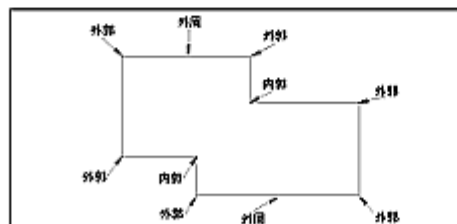
注4)2層の場合は本表数量の2倍としています

【設計(B)余盛部砕石工】

名称	規格	単位	数量	単価	金額	適用
余盛部砕石工	40-0mm(ブロック外周余盛部)					材工共

※数量計算式

[外周延長+(外郭個所数×0.15m)-(内郭個所数×0.15m)]×0.15m×0.33m



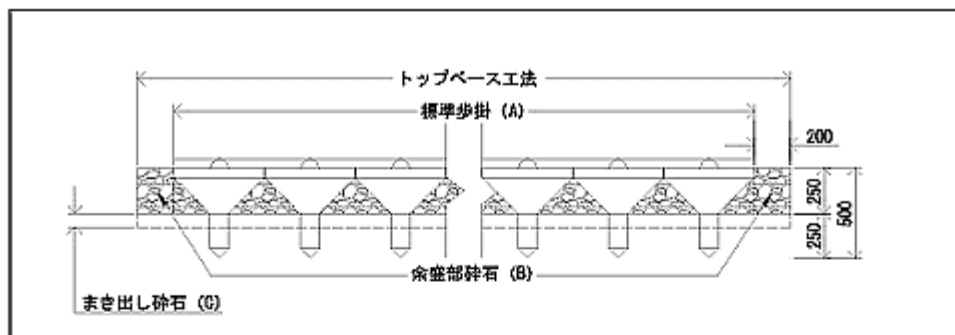
【設計(C)まき出し砕石工】

名称	規格	単位	数量	単価	金額	適用
まき出し砕石工	40-0mm					材工共

注1)作業困難な軟弱地盤でのまき出し量は、別途必要量を計上してください。

トップベース工法 500型(単独) 設計基準例

【設計における条件断面図】



【設計(A)標準歩掛】

(10㎡当たり)

名称	規格	単位	数量	単価	金額	適用
マイ独楽	コンクリート製品 500型	個	40			4個/㎡
世話役		人	0.40			
特殊作業員		人	0.80			
普通作業員		人	1.60			
間詰砕石工	40-0mm(ブロック充填部)		1.46			材工共
筏マット	D13	個	40			加工品
筏ユニオン	鉄筋加工組立 D13	kg	39.8			材工共
計						
1㎡当たり						

(本歩掛は、建設省土木工事積算基準平成7年度版U型側溝L600mm(人力施工)10m(長さ)より算出しています。)

注1)間詰砕石量は、砕石厚25cmを基準としています。

注2)施工状態を考慮し、必要に応じてトラッククレーン等を計上してください。

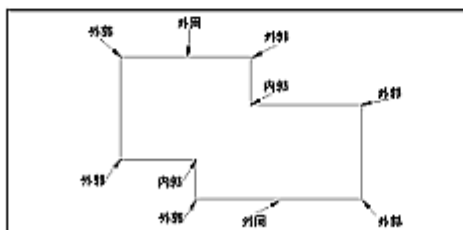
注3)参考重量はV×2.3で500型64kgとしています。

【設計(B)余盛部砕石工】

名称	規格	単位	数量	単価	金額	適用
余盛部砕石工	40-0mm(ブロック外周余盛部)					材工共

※数量計算式

[外周延長+(外郭個所数×0.2m)-(内郭個所数×0.2m)]×0.2m×0.25m



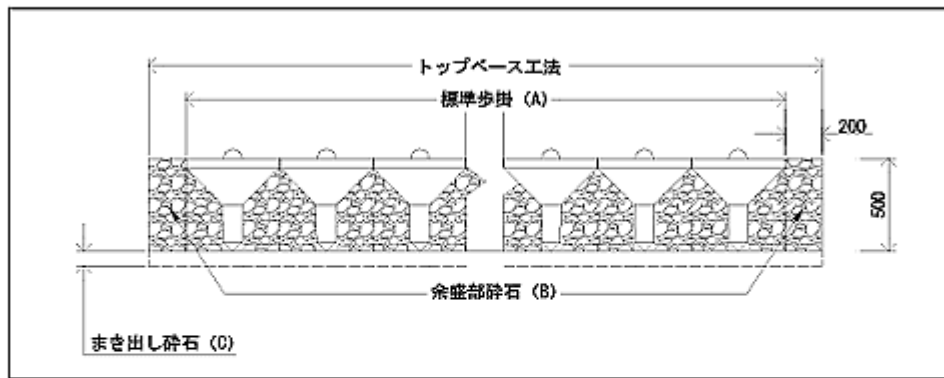
【設計(C)まき出し砕石工】

名称	規格	単位	数量	単価	金額	適用
まき出し砕石工	40-0mm					材工共

注1)作業困難な軟弱地盤でのまき出し量は、別途必要量を計上してください。

トップベース工法 500型2×3(6連) 設計基準例

【設計における条件断面図】



【設計(A)標準歩掛】

(10㎡当たり)

名称	規格	単位	数量	単価	金額	適用
マイ独楽	コンクリート製品2×3(6連)	基	6.66			
世話役		人	0.10			
特殊作業員		人	0.10			
ブロック工		人	0.20			
普通作業員		人	0.20			
ラフテレーン クレーン運転	排気ガス対策型 油圧伸縮ジブ25t吊	日	0.10			
間詰砕石工	40-0mm(ブロック充填部)		3.85			材工共
計						
1㎡当たり						

(本歩掛は、国土交通省土木工事積算基準平成17年度版P68の歩掛を参考にしています。)

注1)間詰砕石量は、砕石厚50cmを基準としています。

注2)本歩掛は、トップベース工法500型2×2(4連)についても適用できるものとしています。

注3)参考重量はV×2.3で500型6連394kg、4連261kgとしています。

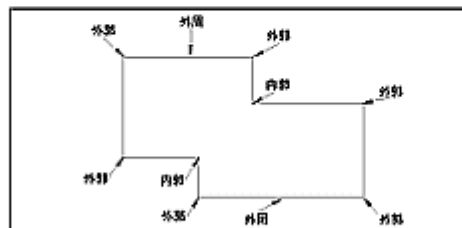
注4)2層の場合は本表数量の2倍としています

【設計(B)余盛部砕石工】

名称	規格	単位	数量	単価	金額	適用
余盛部砕石工	40-0mm(ブロック外周余盛部)					材工共

※数量計算式

[外周延長+(外郭個所数×0.2m)-(内郭個所数×0.2m)]×0.2m×0.5m



【設計(C)まき出し砕石工】

名称	規格	単位	数量	単価	金額	適用
まき出し砕石工	40-0mm					材工共

注1)作業困難な軟弱地盤でのまき出し量は、別途必要量を計上してください。

トップベース工法の一般的適用基準

トップベース工法の一般的適用基準(1)(対象:擁壁)

作用荷重 P (t/m)		$P \leq 3$	$3 < P \leq 5$	$5 < P \leq 7.5$	$7.5 < P \leq 10$	$10 < P \leq 12.5$	$12.5 < P \leq 15$
地盤の種類							
粘性土	$2 \leq N < 4$ ($2 \leq Cu < 4$ t/m)	330型	500型	500型	500型 (一~二層)	500型 (二層)	*
	$N \geq 4$ ($Cu \geq 4$ t/m)	—	—	330型 500型	500型	500型 (一~二層)	500型 (二層)
砂質土	$2 \leq N < 5$	330型 500型	500型	500型	500型	500型 (一~二層)	500型 (二層)
	$5 \leq N < 9$	330型	330型	330型 500型	500型	500型 (一~二層)	500型 (二層)
	$N \geq 9$	—	—	330型	500型	500型	500型

トップベース工法の一般的適用基準(2)(対象:ボックスカルバート・開水路等)

作用荷重 P (t/m)		$P \leq 3$	$3 < P \leq 5$	$5 < P \leq 7.5$	$7.5 < P \leq 10$
地盤の種類					
粘性土	$N < 2$ ($Cu < 2$ t/m)	330型 500型	500型	*	*
	$2 \leq N < 3$ ($2 \leq Cu < 3$ t/m)	330型	500型	500型	500型
	$N \geq 3$ ($Cu \geq 3$ t/m)	—	330型	330型 500型	500型
砂質土	$N < 5$	330型 500型	500型	500型	500型
	$5 \leq N < 9$	330型	330型	330型 500型	500型
	$N \geq 9$	—	—	330型	500型